

幼稚園で働くようになり、ちょうど1年が経過した。毎年、3月末から4月にかけては、スケジュール帳を切り換える時期である。今まで、3月分は、旧のスケジュール帳にも、新のスケジュール帳にも記入してきた。だが、今回の切り換えではやめた。そこまでしなくとも、困りそうもないことがわかった。

転勤等により、新しい職場になる。そこでの1年目のスケジュール帳が重要である。2年目からは、1年目の記録を見ながら見通しをもつことができる。気持ちに余裕が生まれる。

1年前のスケジュール帳を見してみる。ああ、こんなこともあったなあと懐かしさがこみ上げる。4月の1週目には、小学校あいさつ、〇〇さん畑あいさつ、学習センター館長さんあいさつなどと、メモしてあった。どれも主任の先生に連れていってもらった。今年も行かなければならないだろう。今度は、心にゆとりをもって行くことができそうである。

2週目は、お花見とあった。よく晴れた穏やかな日に、桜の木の下にシートを敷き、みんなでお弁当を食べた。お花見団子もいただいた。メモがあると、記憶が蘇る。記憶のスイッチが押される。〇〇買い物というメモもあった。年長児と一緒に、歩いて近くのドラッグストアまで出かけた。4月、5月と、年長クラスに混ぜていただき、いろいろなところに行かせてもらった。おかげで、幼稚園エリアの様子がわかった。地域理解が進んだ。

2年目となる今年度は、業務記録を残そうと思う。主任の先生が、その日にどんな仕事をしたか。園として、どのようなことをしたか。私のスケジュール帳は、右側半分がメモ欄になっている。幼稚園に来るまでは、この右側のページが毎週埋まっていた。ところが、幼稚園に勤めるようになってからは、余白が多くなった。このスペースを有効活用しようと考えた。

幼稚園は、少ないスタッフで運営されている。業務記録をとっていけば、仕事の偏りや削ることができる部分が見えてくるかもしれない。あるいは、足りないことが浮き上がってくるかもしれない。何よりも、記録を残す、すなわち文を書くことで考えるようになる。書くことは考えることである。

今までの長い教員生活により、記録をとることの大切さ、記録を残すことの重要性は認識している。記憶よりも記録である。今年もまもなくお花見の季節である。子どもたちが座るブルーシートは、どこから出てくるのか。お花見団子は、誰がどこから買ってくるのか。普段の保育活動とは違うケースを中心に記録していきたい。問題は、続くかである。何事もすぐに飽きてしまうタイプだが、文章を書くことだけは続きそうな気がする。「継続は力なり」である。